

平成23年度千葉県防災会議

議事概要

1. 防災会議の概要

日 時 平成24年2月9日 14:00～14:45

場 所 千葉県庁本庁舎5階大会議室

出席者 千葉県防災会議委員

2. 議事概要

「千葉県地域防災計画修正の基本方針（案）」について、事務局から説明後、委員から意見をいただき、原案どおり決定した。

なお、委員からいただいた意見等は次のとおり。

- 県ではこれまで、本県に大きな被害を与えた、延宝地震、元禄地震が再来した場合の津波浸水予測図を作成・公表している。最初に県民が津波に関する情報を耳にするのは、気象庁の津波予報、警報である。それに基づいて、自らの避難行動を決定するということになるので、今回新たに、気象庁の津波予報区分に従った浸水予測図を作成しようとしている。

過去の例を見ると、千葉県で想定される津波は、最大ということ进行を考えると10mということになるかと思われる。気象庁の津波警報パターンが10m、5m、3mという形で考えられているので、仮に海岸地点でこの高さの津波がきた場合、どの程度、その地域が浸水していくのか、その予想図を作ろうとしている。

東京湾内湾で津波を起こすような地震は想定されていない。東京湾内湾に及ぼす津波というのは、南の方から来た津波が、浦賀水道を通して東京湾の方に入っていくということで、東京湾の湾口付近で10mの津波を仮に起こした場合、どの程度東京湾内の影響があるのか、という浸水予測図を作ろうとしている。

3連動、5連動、東海地震等の話があるが、東海地震、東南海地震、南海地震に慶長地震が加わった、そういった連動した場合の浸水予測では、最大9m弱になるかと思われる。最大10mの津波浸水予測図を作るという考え方にも繋がっている。

従来も液状化危険度マップというものを作っていた。それは、特定の震源を想定している。例えば、東京湾北部地震といった特定の震源域で地震が起こった場合、どの程度液状化する危険があるのかということ在地図上で起こしていた。ただ、実際にどこで地震、この地点が震源域となって起こるのかはわからないので、その地域で例えば震度5弱が起きたらどの程度液状化しやすいのか、また、次のものは震度5強となるとどの程度液状化しやすいのか、こういう地図を示していきたいと考えている。これは、全く液状化対策をしていない、という地盤を前提として評価をしたいと思っている。3月末を目途に作成し

たいと考えている。

- 災害対策本部の建屋が停電等になっても、その機能を維持できるよう、「庁内体制の強化」の項目の中に「自家発電設備の強化」ということが書かれていると思う。ガス会社の中圧管は溶接鋼管であり、阪神・淡路大震災や東日本大震災クラスの地震でもガス漏れ等の被害がほとんどなく、極めて震災に強いことが証明されている。このガスを御活用いただくことが、実際に発災したときに非常に役に立つと思う。中圧ガスを利用した分散型電源やコジェネレーションの導入が、多重安全という観点からも「自家発電設備の強化」につながると思う。今後御検討をいただきたい。
- 今回津波の予測図を作成するにあたり、例えば東京湾北部地震等を想定した予測図を作るのかという点について、あと、地震が発生してから津波が到達するまでのおよその時間について、目安について示すのか。
- 時間については、どこで地震が発生するかによってだいぶ違うが、過去の元禄地震の例で見ると、例えば九十九里の方だと25分前後、南の方だとやや早くて5分ないし10分くらいかかっていたようである。東京湾の中についてはもう少しタイムラグがあると思う。そういったことについても専門委員会の方で検討していただいているので、結果を合わせてお示しできると思う。

以上